

# 令和4年度幼稚園学校評価（出雲市立中部幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価	評価	
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	「心豊かでたくましい子供の育成」という教育目標を常に意識しながら、今年度の幼稚園経営方針に基づいて、学級の実態に応じた経営案、指導計画を作成し、季節の変化や地域の特性を生かした保育活動に取り組んだ。各種行事を含め、日頃から保育活動を振り返り、改善に生かそうと努めた。また、学級だよりや園だより、園長だより等の発行やホームページの活用により、園の思いやその取組の様子について保護者や地域に知らせよう努めた。	3	4	教育目標の達成に向けて、今後も継続して計画的に指導計画の見直しを行い、組織としてより良い経営が行えるよう改善を重ねていく。また、各種行事についても、引き続きコロナウイルス蔓延防止に配慮しながら常に見直しを行い、実施後の振り返りを大切にして、よりよい活動となるように努めていく。また、園の取組の様子について、便りやホームページ等で積極的に情報発信していきたい。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	観察や聞き取り等により、一人一人の園児の実態や課題を把握し、幼児理解に努めるとともに、日々の小さな変化についても普段から気軽に情報交換するよう心掛け、きめ細かな対応に努めている。ただ、外国籍の園児や特別な支援を必要とする園児が増えてきており、個別の対応が十分しきれていない部分もある。学級だよりや連絡帳、送迎の際等を利用して情報交換を行い、家庭との連携を大切にして、組織としての対応をさらに高めていきたい。	3	3	個々の園児の実態や課題について職員間での報・連・相を密にし、園全体での情報共有に努める。また、学級だよりや連絡帳、送迎の際の保護者との対話等を活用して、密に連携を図っていく。特に外国籍の園児については、園に在在するポルトガル語が話せる保育補助員を有効に活用しながら、言葉や文化の違いを乗り越えて日本の生活になじんでいけるよう引き続き努めていく。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	特別な支援が必要な園児について、日ごろから職員間の情報共有に努めるとともに、特別支援コーディネーターを中心に、園内支援会議を開いたり、市の保育幼稚園課による巡回訪問指導などを活用し、専門的な立場から担任や補助者に対して指導・助言をいただいている。また、医療や福祉等の関係専門機関との連携も積極的に図りながら、組織としての対応に努めている。	4	3	特別な支援を必要とする園児に対して、特別支援コーディネーターを中心に、早めの情報共有を心掛け、保育幼稚園課や行政センターの保健師等の関係機関との連携を図りながら、巡回訪問指導や個別の支援シートを活用して、よりよい支援につなげていきたい。また、保護者に対しても、小学校入学を見据えた支援ができるよう、情報提供に努め、特別支援教育への理解を得ていきたい。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	それぞれの発達段階に応じて、ふだんの生活の中で、園児一人一人の得意なことや良さについて、また友達への思いやりのある関わりなどについて、その都度意識して取り上げて指導してきた。挨拶や履物そろえなどのふるまいについても、人権の観点と結び付け、自分と同じように友達も大切にすることにつながるということを指導している。友達と一緒に活動する良さを味わうことができる園児が増えていくよう、これからも一人一人を大切に保育に努めたい。	3	3	挨拶や履物そろえなどのふるまいや、早寝早起き朝ごはんなどの基本的な生活習慣を身に付けさせることにより、やればできるという経験を積み重ね、自尊感情を高めていきたい。また、友達との心地よい関わりを通して、周りの人を大切にしながら、落ち着いた生活できる園児の育成に努めたい。そのためにも、教職員自身が常に人権についてアンテナを高く掲げ、人権感覚を磨く努力を続けていきたい。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	今年度もコロナ禍の中、引き続き感染拡大に十分配慮しながら、園内外での行事を安易に中止しないよう努め、園児の成長の機会を最大限保障できるよう工夫しながら実施した。季節や地域の特色を生かした多様な行事に取り組むことで、園児の感性が豊かに生まれ、それぞれの発達段階において一人一人が大きく成長することができたと感じている。	4	4	コロナが終息する見通しは未だ立たない状況ではあるが、幼児期における多様な行事の経験が園児の健やかな成長に欠かせないという信念のもと、できる形や方法を工夫しながら実施していきたい。また、各行事の実施後に振り返って反省し、行事の精選、内容の見直し、改善をさらに進めていきたい。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	コロナ禍の中ではあったが、今年度は全園児で小学校の体育会の見学に出かけたり、年長児が小学校の1年生と一緒に体育の授業に参加させてもらったりして交流することができた。また、年長児が自分たちで育てたさつま芋を焼いて小学校に届け、喜んでもらえる体験もできた。しかし、中学校区の保幼小中の教員の連携の会は、一部しか実施できず残念であった。	3	3	今年度もコロナ禍の中ではあったが、小学校との交流をできるだけ実施する方向で進めるよう努力した。次年度も、できる方法や形を工夫しながら、さらに交流を深めていきたい。また、中学校区の保幼小中の連携についても、本来の姿に戻るよう、連携推進委員会で計画を立て、中学校区で足並みをそろえた取組を行い、指導の効果を挙げていきたいと願っている。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	コロナ禍の中、今年度も保護者には竹取や餅つき、花壇の苗植え等の一人一役ボランティアや、夏休みの奉仕作業等に参加していただくことができた。また、お年寄りにはがきを書いたり、祭りで作品を展示したりして、地域に貢献することができた。未就園児と保護者との交流の機会も定期的に開催し、徐々に参加者も増えてきて喜んでいる。これが、地域の子育て支援の一助になるだけでなく、減少しつつある園児数の歯止めにも結び付けよう願っている。	3	4	園児数の減少や共働き家庭の増加など、PTA活動への参加について難しい面があるが、できるだけ負担の少ない形や方法、内容を検討し、見直ししていく必要がある。また、地域から多大な支援を受けている立場として、少しでも貢献できるよう努めていきたい。特に未就園児教室の開催については、地域への子育て支援や幼稚園教育のPRの場となる機会と捉え、楽しく魅力ある内容を心掛け、参加者の増加、入園児の増加につなげたい。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	どの学級でも研究保育を実施し、互いの保育を公開し合っ、幼児が自ら継続して遊べるような環境構成と教師の援助の在り方について研究を深めることができた。また、市の保育幼稚園課から指導員を招いての園内研修も実施して、専門的な立場から指導・助言をいただくことで、新たな気付きや課題も見つかり有意義であった。今後はコロナが終息して、また園外での研修にも積極的に参加できるようになることを願っている。	3	3	コロナの感染状況がどうなっていくかにもより、外部に出かけての研修は今後も難しいかもしれないが、出かけられるものについては積極的に出かけたり、リモートを活用したりして、園内で伝達して前職員の資質向上に努めたい。また、今年度と同様、担任全員が園内でお互いに保育を見合う機会を持ち、引き続き環境構成と教師の援助の在り方について研修を深めていきたい。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	限られた職員数ではあるが、互いに長所を生かし、足りないところを補い合いながら、「チーム中部幼稚園」として協力し合っ、園務が進められるように努めた。また、悩みや問題を一人で抱え込むことがないように、声をかけ合い、常に組織としてみんなで力を合わせて対応していくよう心掛けている。	4	4	年度当初に園務分掌を決める際には、年間を見通した業務の分担と適材適所を心掛け、負担の平準化と組織の活性化を図りたい。また、限られた職員体制であるので、組織として対応できるよう、普段から職員間の円滑なコミュニケーションを心掛け、お互いにカバーし合える協力体制を築いていきたい。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	今年度もコロナウイルス感染症蔓延防止について細心の注意を払いながら、園での活動を慎重に進めてきた。市からのコロナ対策の予算で体温測定器を玄関に設置するなど、備品の充実にも心掛け、対策の徹底を図った。例年行っている避難訓練や交通安全教室については計画通り実施できたが、防犯教室と園児引き渡し訓練は、コロナの感染拡大のため、残念ながら中止となった。来年度は、ぜひ実施したいと考えている。	3	3	コロナ対策については、今後も引き続きみんなで意識しながら生活し、「自分の命（健康）は自分で守る」という基本的な心構えが身につくよう指導を継続していきたい。また、ふだんの生活の中での危機管理についても改めて見直し、改善を図っていくとともに、避難訓練や交通安全教室、防犯教室なども、計画的に着実に進めていきたい。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	園舎・園地が狭隘で、老朽化が否めない状況ではあるが、毎月の安全点検や施設・設備の市への改善要望等を通して、徐々に改善・整備されてきている。今年度は年長・年中クラスの保育室のロッカーの底面を張り替えてもらったり、園庭のブランコを回収してもらったりした。今後も緊急性の高いものから順次修繕に取り組んでもらえるよう働きかけていきたい。	3	3	市の財政面での制約もあり、園舎の老朽化や狭隘な施設の実態の改善は容易ではないが、子供たちにとって安全で過ごしやすい施設設備となるよう、引き続き保守管理に努めていきたい。また、毎月の施設・設備の安全点検を徹底すると共に、保育幼稚園課や教育施設課への情報提供・要望により、園児の安全を確保していきたい。また、園庭の除草や剪定作業等も計画的に行い、環境整備にも尽力していきたい。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する